

内外の化学繊維生産動向

— 2016年 —

2017年3月13日

日本化学繊維協会

本資料の2016年の数値は、至近の発表値をもとに日本化学繊維協会
で推定したものです。

1. 世界の繊維生産

表-1 世界の主要繊維の生産

(1000ト)

	全繊維	化学繊維		綿	羊毛	絹	
		合繊	セルロース				
2012	84,080	56,091	51,818	4,273	26,670	1,166	153
2013	87,045	59,442	54,646	4,796	26,280	1,163	160
2014	89,282	61,760	56,788	4,973	26,200	1,144	178
2015	86,140	63,769	58,621	5,148	21,030	1,157	184
2016	89,345	65,575	60,238	5,337	22,480	1,099	191
16/15(%)	3.7	2.8	2.8	3.7	6.9	-5.0	3.6
構成比(%)	100.0	73.4	67.4	6.0	25.2	1.2	0.2

日本化学繊維協会推定

綿、羊毛は季節年度

- 2016年の世界の主要繊維生産（推定）は前年比4%増の8,935万トと史上最高を記録した。
- 化学繊維は前年比3%増の6,557万トと過去最高となった。うち合繊（オレフィン繊維を除く）は3%増の6,024万ト、セルロース繊維（アセテートトウを除く）は4%増の534万トとなった。
- 化学繊維の生産は2009年以降8年連続で拡大したが、繊維全体に占めるシェアは綿の生産量が前年比7%増となったことから、73%と前年の74%から1ポイント減少した。
- 天然繊維は、綿が前年の急減から一部回復して7%増の2,248万トとなった。最大生産国のインドが横ばいだが、米国、パキスタン、ブラジルが増加、中国が減少した。羊毛は、主要産毛国のオーストラリアが減産の見通しであることから世界全体で5%減と減少の見込み。

図-1 世界の主要繊維の生産

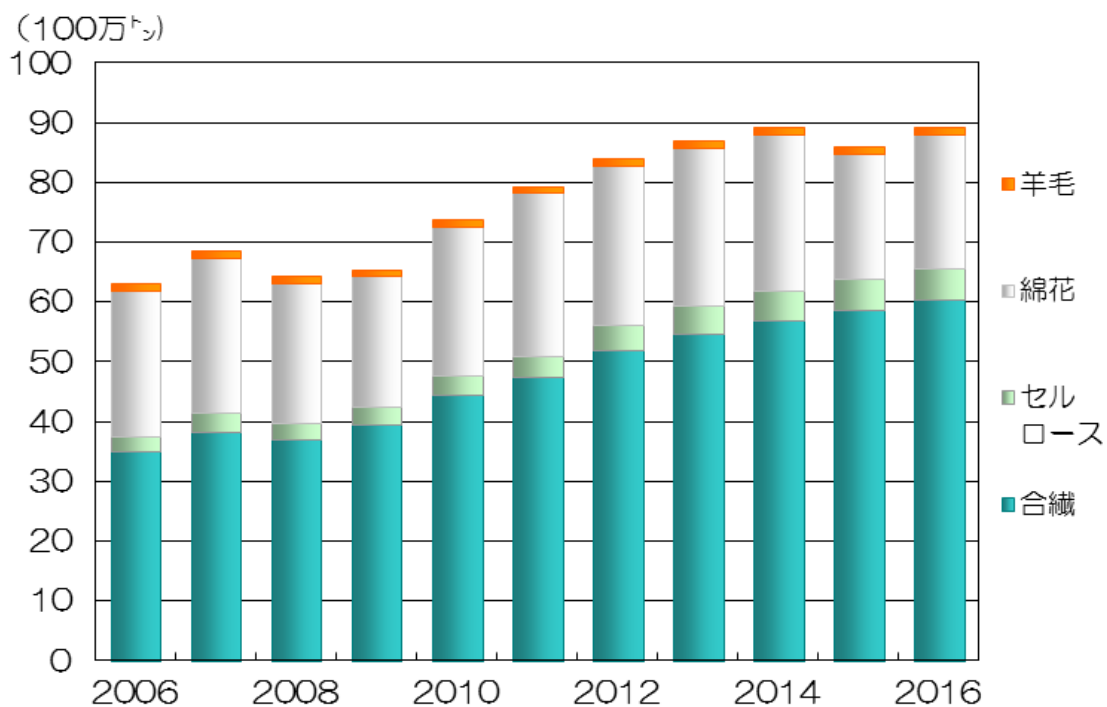
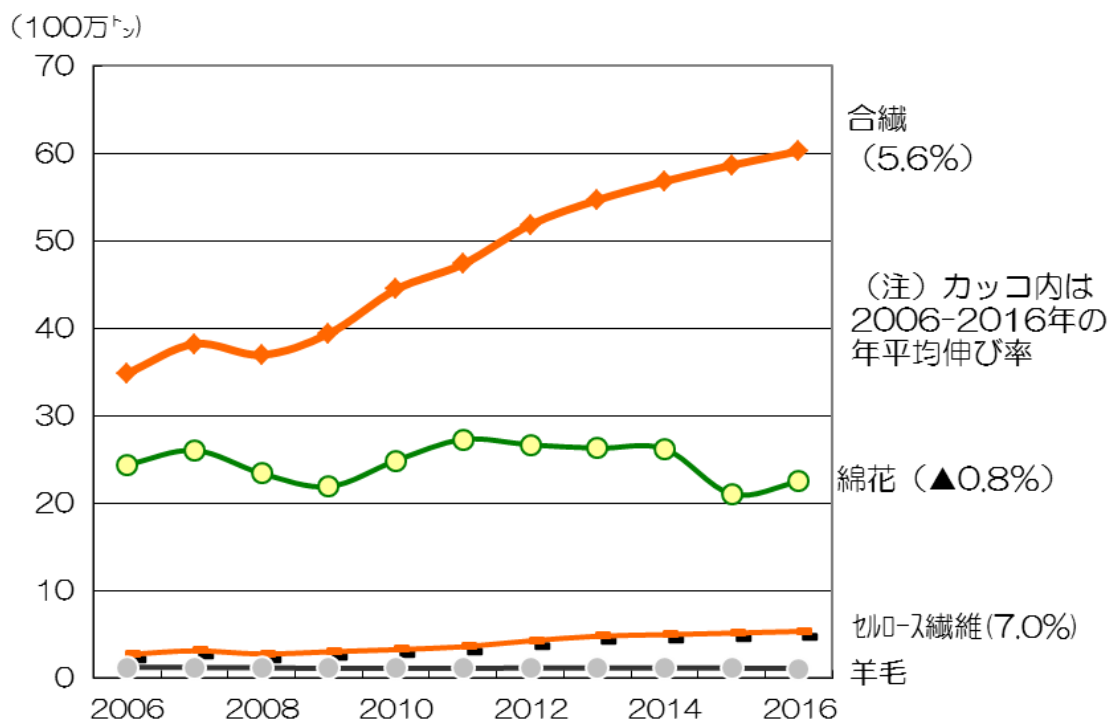


図-2 世界の主要繊維の生産推移



2. 世界の化学繊維生産

- 主要国・地域別に化学繊維生産をみると、最大の中国における生産増は継続したものの、伸び率は前年比4%増と鈍化傾向を示した。その他の主要生産国・地域はそれぞれ異なる状況を示した。

表-2 主要国・地域の化学繊維生産(2016年)

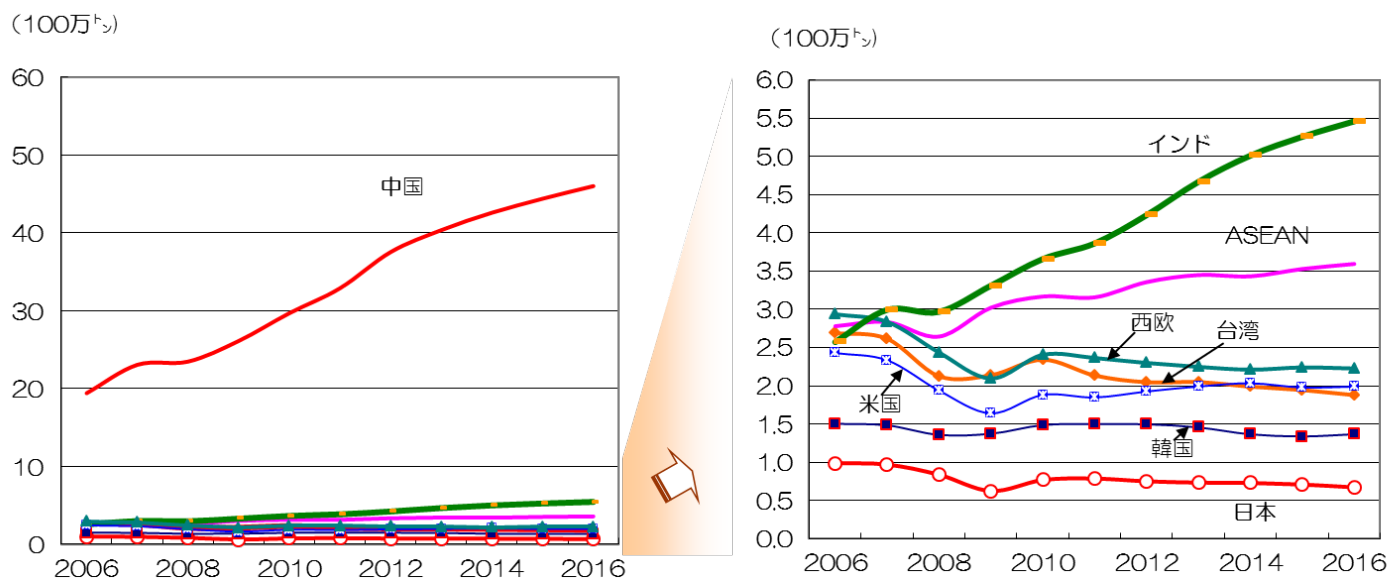
(1000ト)

地域	ポリエステル		ナイロン	アクリル	合 織 計	切ロ-ス 計	化 織 計	構成比 (%)
	フィラメント	ス-プール	S+F	S				
日 本	124 -3.0	111 -17.0	91 -0.2	127 -10.2	613 -5.3	62 -2.9	675 -5.1	1.0
韓 国	625 0.5	589 3.9	101 -5.3	53 21.1	1,369 2.1	- -	1,369 2.1	2.1
台 湾	865 -5.9	547 3.6	303 -4.7	58 5.1	1,773 -2.6	107 -15.3	1,880 -3.4	2.9
中 国	28,853 3.5	9,945 3.6	2,689 13.5	692 -1.5	42,497 3.5	3,529 5.0	46,026 3.6	70.2
ASEAN	1,412 1.8	1,245 2.7	156 1.6	129 0.3	2,942 2.1	653 0.8	3,595 1.9	5.5
インド	3,266 3.3	1,422 3.7	107 3.3	103 1.9	4,907 3.4	551 7.9	5,459 3.8	8.3
米 国	646 -0.6	636 1.0	566 1.5	- -	1,968 0.6	24 1.8	1,991 0.6	3.0
西 欧	406 -2.1	538 2.1	363 1.3	466 -3.5	1,836 -0.5	392 -1.1	2,228 -0.6	3.4
世界計	36,793 2.9	16,307 3.0	4,774 7.5	1,776 -1.7	60,238 2.8	5,337 3.7	65,575 2.8	100.0

(注) 1.上段は生産量、下段は前年比(%) 2.推定を含む
3.オレフィン繊維、アセテートトウを含まない

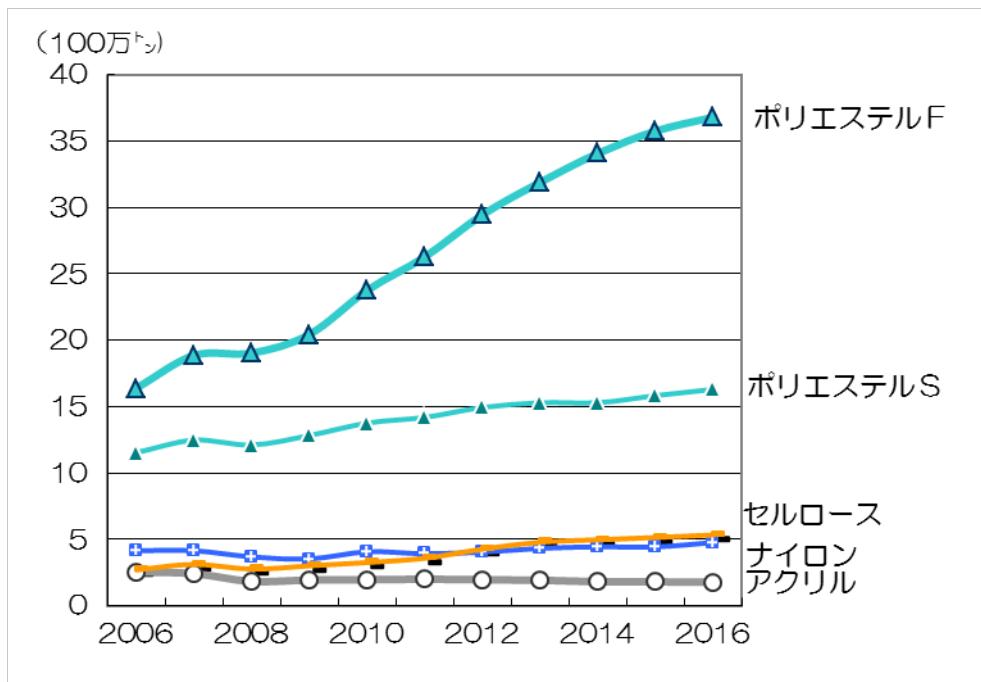
- 中国は4%増の4,603万トと増加が継続しているものの、成長率は鈍化した。品種別では主要品種のポリエステルが4%増、アクリルが微減(1.5%減)となったが、ナイロンが14%増と大幅に増加した。またセルロース繊維も5%増と増加が継続した。中国の世界生産に占める割合は70%と前年比横ばいである。
- その他の主要生産国・地域はインド、ASEAN、韓国が2~5%前後の増加、西欧、米国がほぼ横ばい、台湾、日本が3~5%減となった。

図-3 世界の主要国・地域の化繊生産



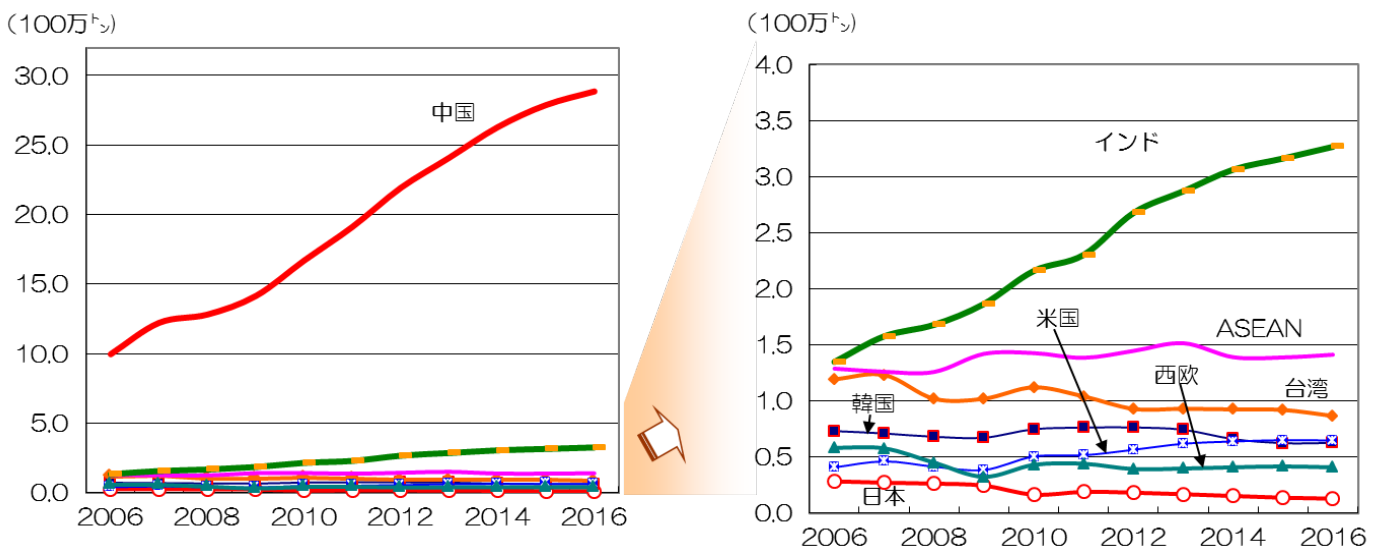
- 主要品種別にみると、ポリエステルは中国の成長率の鈍化により、フィラメント、ステープルともに3%の増加となった。ナイロンは中国の大幅増が継続したことから8%増、アクリルステープルは1.7%減と減少した。
- ポリエステルは、フィラメントが前年比3%増の3,679万ト、ステープルが3%増の1,631万ト。フィラメント、ステープルをあわせたポリエステルの化繊生産に占める割合は81%と前年比横ばい。
- ナイロンは8%増の477万ト。うちフィラメントは中国が増設の影響もあって大幅に増加（14%増）したが、日本、韓国、台湾が減少したことから、全体では8%増となった。同ステープルは中国の増加により7%増。
- アクリルSは2%減の178万ト。中国、ASEAN、インドが横ばい、韓国、台湾が増加したが、西欧（4%減）、日本（10%減）が減少した。
- セルロース繊維（レーヨン、アセテート、キュプラ）は4%増の534万ト。中国（5%増）、インド（8%増）、韓国、米国が増加したが、西欧、台湾、日本は減少した。同繊維の2006～2016年の年平均伸び率は7.0%で、依然、合繊（5.6%）を上回っている（図-2）。

図-4 世界の主要化繊品種の生産推移



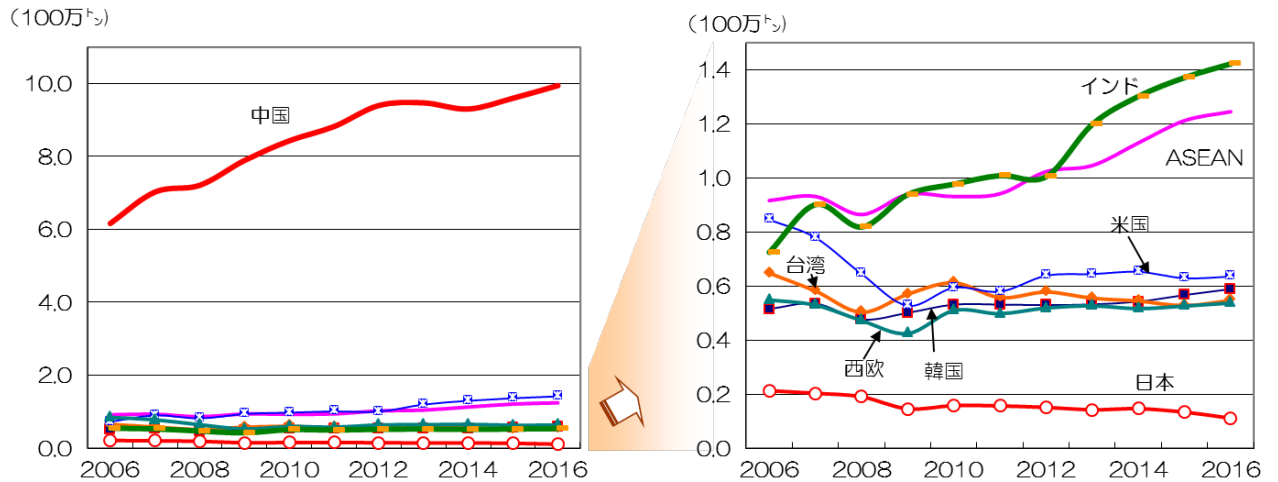
- ポリエステルF：前年比3%増の3,679万トと過去最高を更新した。供給過剰が問題となっている中国は4%増となった。この他インド、ASEANは増加したが、西欧、米国、日本は1～3%減少した。米国は主力のカーペット用が増加したのに対し、衣料用、産業用は減少した。韓国は横ばい、台湾は6%減となった。

図-5 世界の主要地域別ポリエステルF生産



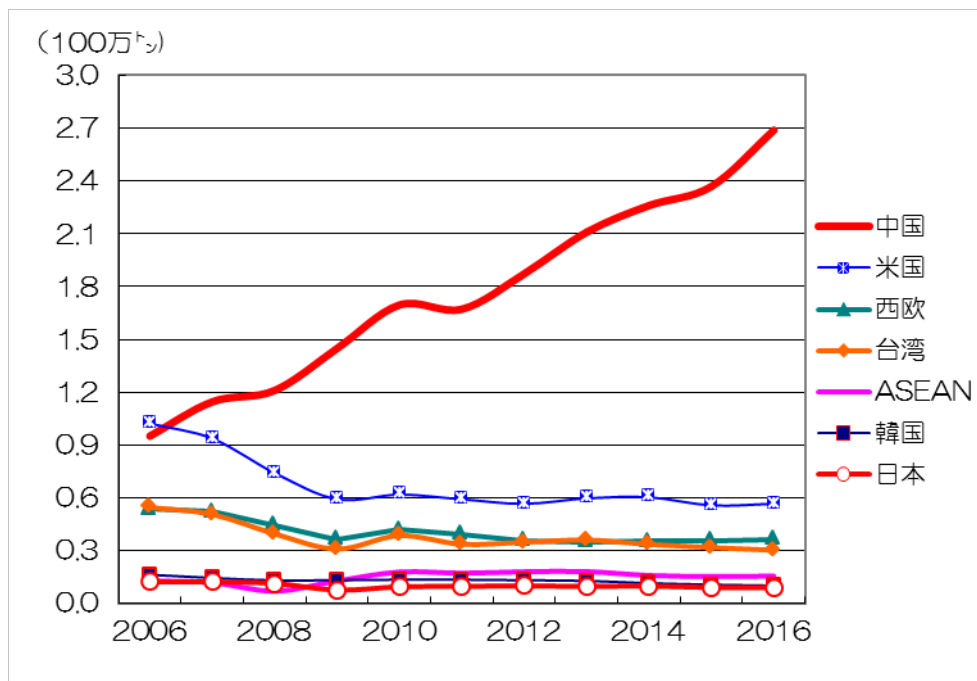
ポリエステルS：前年比3%増の1,631万ト。主要生産国の中国、インド、ASEAN、米国、西欧、韓国、台湾がいずれも増加したが、日本は17%減少した。米国はカーペット、不織布用が増加したのに対し、衣料用は減少した。

図-6 世界の主要地域別ポリエステルS生産



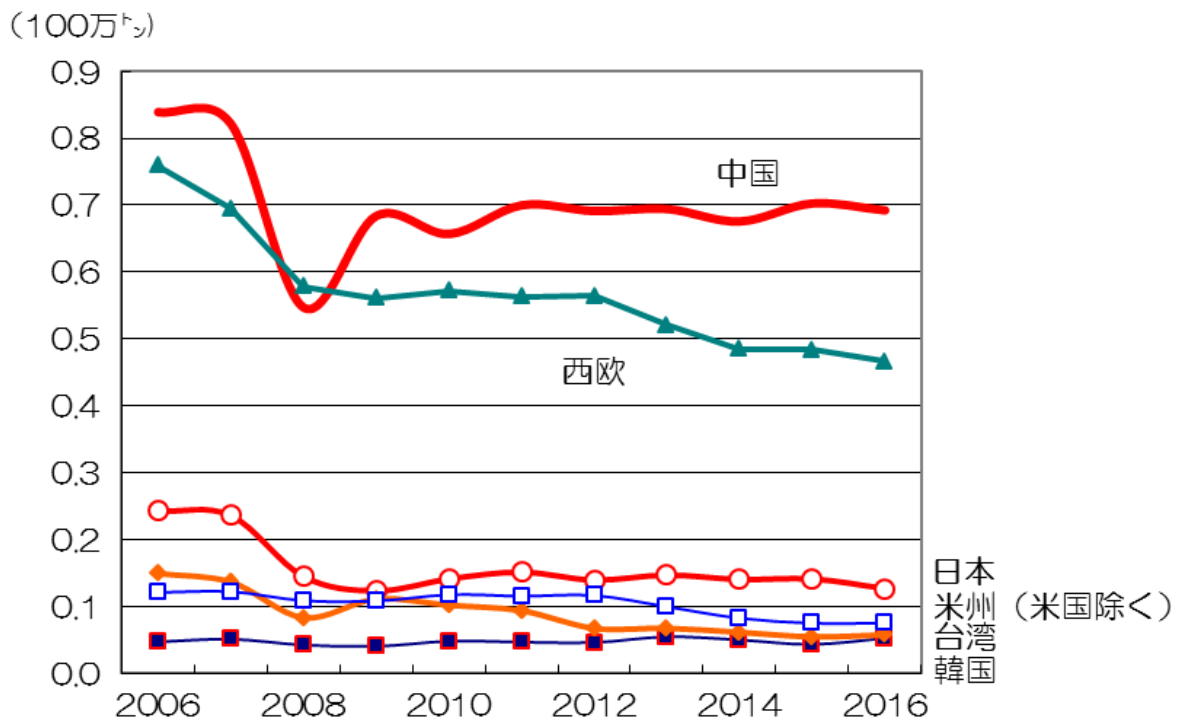
- ナイロン：前年比8%増の477万ト。中国が増設の影響もあって14%増と大幅に増加した。米国は主力のカーペット用と併せて産業用が増加し、全体で2%増。西欧も産業用が増加し、全体で1%増となった。

図-7 世界の主要地域別ナイロン生産



- アクリルS：前年比2%減の178万ト。主要生産国の中国が微減（1.5%減）であったのに加え、西欧が4%減と減少した。また中国のフェイクファー向け内需の不調とアンチダンピング措置もあり、主力の中国向け輸出が大きく減少した日本が10%減となった。一方で、生産量は少ないもののインドが2%増、韓国が前年の生産減の反動から2桁増となった。

図-8 世界の主要地域別アクリルS生産



3. 日本の化学繊維生産

- 2016年の日本の化学繊維生産は前年比5.0%減の91万ト(オレフィン、アセテートトウを含む)となった。内訳は合繊が5.5%減、セルロース繊維が2.8%減となった。

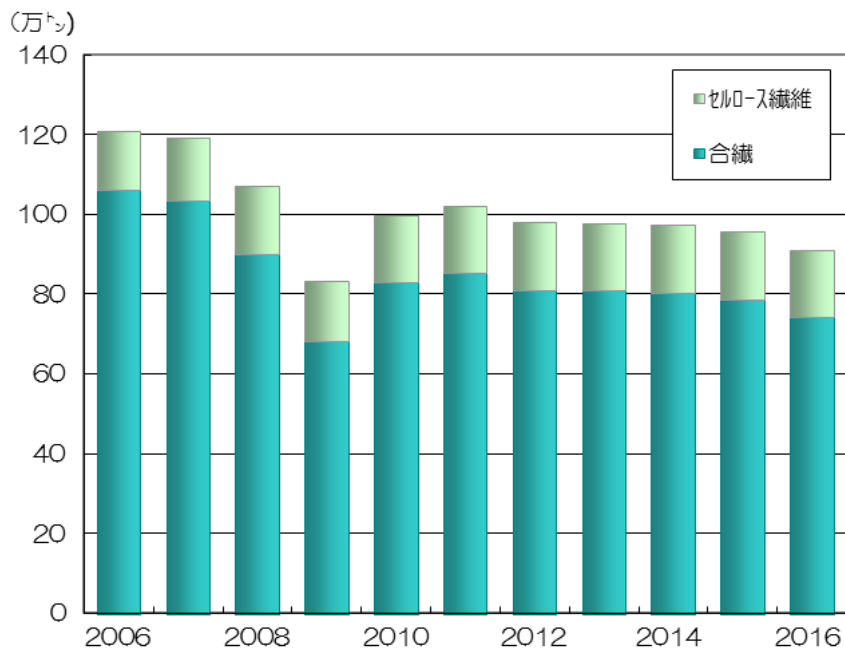
表-3 日本の主要化学繊維の生産

	2013	2014	2015	2016	16/15%
ポリエステルF	151.3	135.7	127.7	123.9	-3.0
ポリエステルS	142.8	146.6	134.2	111.4	-17.0
ナイロンF	95.4	98.0	89.5	89.4	-0.1
アクリルス	147.3	140.8	141.5	127.1	-10.2
ポリプロピレン	131.5	129.3	133.0	134.0	0.8
合繊計	812.2	804.6	787.1	743.8	-5.5
セルロース計	167.5	171.1	172.6	167.7	-2.8
化繊計	979.7	975.7	959.7	911.5	-5.0

(出所) 経済産業省(化繊協会推定を含む)

(注) オレフィン、アセテートトウを含む。

図-9 日本の化学繊維生産推移



- 合成繊維の生産は5.5%減の74万ト。主要品目ではポリエステルSが17.0%減、アクリルSが10.2%減と短繊維が大幅に減少したほか、長繊維もポリエステルFが3.0%減、ナイロンFが横ばいながら0.1%減といずれも減少した。一方、紙おむつなど衛材用が好調であったポリプロピレンが0.8%増と増加した。
- セルロース繊維の生産は2.8%減の17万トであった。

図-10 日本の主要化合繊生産

